

国立病院機構熊本医療センター

No.244



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

平成29年度 第1回

## 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会 が開催されました



平成29年度第1回（通算43回）国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、9月4日（月）午後7時より、ホテル日航熊本（5階阿蘇の間）にて開催致しました。登録医の先生方及び地域医療連携ご担当の皆さまほか362名の方々にご出席いただき、院内スタッフ161名と合算して総勢523名と多くの方々にご参加頂きました。

開会にあたり、高橋院長より、熊本市医師会及び開放型病院に登録頂いたご施設によるこれまでのご協力、ご支援に感謝を申し上げます。続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の福島敬祐先生がご挨拶され、当院の地域の中核病院として、さらなる発展への期待を述べられました。その後、熊本市医師会理事の田中英一先生と当院大塚副院長の司会で総会が始まり、山下精神科部長より「精神科の紹介」、中川脳神経外科医長より「脳血管内治療について」と題し、症例の提示がありました。この後、渡邊地域医療連携室長より「地域医療連携室からのお知らせ」、菊川地域医療連携副室長より「紹介予約センターからのお知らせ」、佐伯看護部長より「看護部からのお知らせ」、内田事務部長より「事務部からのお知らせ」

と続き、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、清川副院長の閉会の挨拶で総会を終了致しました。

総会終了後は会場を隣に移し、熊本市医師会副会長の園田寛先生によるご挨拶及び乾杯のご発声で意見交換会が始まりました。診療科毎に設置されたテーブルを囲んで、終始和やかな雰囲気でした。途中、大塚副院長より当院の各診療科部長（医長）の紹介、続いて井上副看護部長より、副看護部長、看護師長を紹介致しました。最後に熊本市医師会理事の田中英一先生の閉会の挨拶で盛況のうちに無事終了となりました。

ご参加頂いた皆さまにおかれましては、お忙しいところ誠に有り難うございました。この会が当院との連携を一層深め、地域医療を益々発展させて頂く機会となれば幸いです。（庶務班長 毛利安則）



福島敬祐熊本市医師会会長  
のご挨拶

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「聚楽内科クリニックの役割」

聚楽内科クリニック

院長 武本 重毅



この春から東区の西原（にしばる）にありますプラチナマンション聚楽内でクリニックを開院しました。マンション内の事務室と同じフロアにあるためか近隣住民の来院はまだ少なく、マンション居住者および隣接する特別養護老人ホーム「風の木苑」入所者の診療が主な仕事です。

実は、私は研究者です。色々なことに興味をもって生活しています。20年前にはアメリカにおりました。そして高知大学医学部付属病院を経て、これまで12年間国立病院機構熊本医療センターで、探究心をもって細胞内遺伝子やタンパクの変化から細胞外血液中タンパク異常の研究を地道に続けてまいりました。その結果、クリニックを開院するころには、

このアイデアをもっと多くの疾患や病態に応用できると考えるようになりました。その一つが、動脈硬化に代表される血管障害をいかに予防し、克服するかということです。65歳以上の4大死因である、心疾患や脳卒中はもちろん、血管障害はがんの進展にも関与しており、さらには肺炎の重篤化にも関係すると思われまます。そして、全身疾患である高血圧、糖尿病、腎障害、特に熊本市が取り組んでおります慢性腎臓病（CKD）も、その主たる病変は血管にあると言えます。

さらには社会保障問題が議論される中、海外研修員との交流の中で知ることのできた医療や介護のグローバル化、そしてコミュニティの重要性を肌で感じることができました。私の目指すことの一つが、西原地区の皆様と一緒に取り組む地域医療ケアシステムの構築です。高齢化が進み、人口が減り、一人暮らしやご夫婦で暮らしている方が多くなっているこの地域で、皆様が安心して、元気に生活するためのコミュニティを再生するお手伝いをさせていただきたいと考えています。

私がこれからの医療として考えているのは、病気になってから治療を始めるのではなく、病気にならないように自分で身体や生活をコントロールし、発症するリスク（危険性）を抑え、あるいはそれが起こることを予測して病気になることに備えるという取り組みです。まずは、このコンセプトをもとに始めた聚楽内科クリニックのサービスを、どうぞ体験してみてください。

（ホームページ <http://juraku-clinic.jp>）

## 退任のご挨拶

臨床研究部長

芳賀 克夫



この度、8月末をもちまして、19年余にわたり勤務してきました当院を退職することとなりました。私は平成10年1月より外科医師として国立熊本病院に転勤してまいりました。多くの先輩方に手術を教えてくださいましたことを昨日のこのように憶えています。

また、平成20年4月からは臨床研究部長に昇任し、外科外来で主に新患を担当してきました。皆様には病診連携・病病連携で大変お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。

9月からは熊本大学消化器外科学馬場秀夫教授のご高配により天草中央総合病院の院長に就任いたします。何かと至らぬことがあるかと存じますが、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。





## 平成29年度救急功労者表彰(総務大臣表彰)の受賞について

この度、当院高橋院長が、多年にわたり救急業務推進に貢献された功績を受けて、「平成29年度救急功労者表彰(総務大臣表彰)」を受賞致しましたので、ご報告申し上げます。

受賞理由(功績概要)は、『院内に救急研修ステーションを開設し救急隊員等の長期教育研修システム構築や、全国に先駆け「移動体通信を使用した医療情報の伝送システム」に尽力。熊本地震では、率先して熊本医療センターに特定行為専用のホットラインを開設し、救急救命士に対する指示・指導・助言ができる体制を築くとともに、負傷者の積極的な受け入れに貢献された。』です。(今年度の総務大臣表彰は個人14名及び1団体が受賞しています)

表彰は、平成29年9月8日(金)、KKRホテル東京にて行われました。また、9月4日(月)、熊本県庁にて救急医療功労者知事表彰も受賞しましたので、併せてお知らせ致します。



野田聖子総務大臣ご挨拶の様子



表彰状を手に笑顔の高橋院長

院長は、平成4年7月当院に採用されて以来、連日連夜救急車に同乗し、また、救急医療への協力依頼など開業医の先生方を訪問したと伺っております。救命・救急部長、副院長を歴任し、平成29年4月院長に就任しました。まさに、当院の救急医療体制の基盤づくりを長期にわたり作り上げた功労者です。

当院は、熊本県地域救急医療体制支援病院として、救命救急センターを中心に年間約10,000台の救急車の搬送があり、さらに防災ヘリコプターの基幹施設として、ドクターヘリとの熊本型ヘリ救急搬送体制を担っています。脳卒中、心・血管疾患、感染性疾患など多くの救急患者を受け入れ、「1年365日24時間、断らない救急医療」をモットーに病院全体で取り組んでおります。  
(事務部長 内田正秋)

## 熊本大学大学院生命科学研究部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授 折田頼尚教授の特別講演が行われました

6月16日付で熊本大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室の教授に就任されました折田頼尚(おりた よりひさ)先生の特別講演が8月30日研修ホールにて行われました。

先生は岡山大学出身で、47歳と非常に若く、年齢は私の1つ先輩ですが、卒業年度は同期です。もうそのような年齢になったのだ、と感慨深く講演を拝聴いたしました。

講演では「頭頸部癌手術の実際」と題しまして、頭頸部領域における悪性腫瘍の診断、治療についてわかりやすく説明され、その後は先生ご自身の今までの頭頸部癌手術のちょっとグロテスクとも思える術中写真をふんだんに使いながら、ある時は「あの時はこうすればよかった」などの反省談などを交えながら穏やかに話されました。先生はとてもスマートで穏やか、笑顔の素敵な方で、そのような方があのようなダイナミックな手術をされるそのギャップに驚きました。

今回の先生のご講演で、そのさわやかな笑顔と内に秘めるパワーで熊本県の耳鼻咽喉科に貢献していただ



講演される折田頼尚教授

けること、また耳鼻咽喉科の入局者が今までになく増加することを確認いたしました。

講演を通して耳鼻咽喉科以外の先生にとって、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の領域がとても幅広く扱っているということが分かっていただけたのではないかと思います。しかし当院の耳鼻咽喉科はあそこまではできる技量とマンパワーはありませんのであしからず…。

(耳鼻咽喉科医長 上村尚樹)

## ○医科・歯科研修医試験が行われました!○

平成30年度臨床研修医募集要項に基づき、医科は8月10日と8月17日の2回に分けて、歯科は8月24日に、研修医選考試験が行われました。選考方法は書類審査、小論文及び面接で、最終的にマッチングによって決定されます。当院とマッチングを希望する医科学生は、定員16名の総合コースに対して46名の応募、定員3名のプライマリケアコースに対して45名応募、また歯科は定員2名に対し4名の学生さんに御応募いただきました。いずれの学生さんも非常に立派で、素敵な、素晴らしい方々ばかりで、正に甲乙つけがたく、どの学生さんに来ていただいても病院としては大変うれしく思います。書類審査、小論文、面接にて厳正な審査を

行い、当院病院サイドからのマッチング順位が決定され、提出いたしました。願わくはフルマッチすることを祈念し、また御縁あって当院とマッチした学生さんには卒業試験・国家試験も見事にパスしていただき、来春から御一緒に勤務できることを楽しみにお待ちしております。  
(教育研修部長 富田正郎)



## 第6回 ELNEC-J in KMC ~おうちにかえろう~ ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア・セミナー を開催しました!

8月19・20日に第6回ELNEC-J (End-of-Life Nursing Education Consortium Japan) を開催致しました。ELNEC-Jとは、エンド・オブ・ライフ・ケアを提供する看護師のための包括的・系統的な教育プログラムで、全国各地に普及しているものです。

今年は、「おうちにかえろう!」をテーマに開催し、院内から17名、地域の病院や施設、クリニックから31名の方が受講されました。本プログラムは、開発者の一人である(株)まちなのナースステーション八千代の福田裕子先生のスーパーバイズのもと、ひまわり在宅クリニック後藤慶次先生をゲストサポーターに、がん関連専門・認定看護師11名で講義や演習を担当しました。



福田裕子先生、後藤慶次先生と講師の皆さん

具体的には症状マネジメント、倫理と文化、コミュニケーション、悲嘆などの10のモジュールの講義とケーススタディ、ロールプレイで構成されています。受講生は「その方が望む場所でその方らしい生活を支えることに関わる覚悟」を強められ、そのために看護師として必要な知識や態度を習得されました。それぞれに1年後に達成している目標を表明し、「患者さんの所にいくのが楽しみです!」と明日からのケアへの意欲を見せられました。

最後になりましたが、開催にあたり支えて下さいましたすべての皆様に感謝致しますとともに、受講生の皆様の今後のご活躍をお祈りいたしております。

(がん看護専門看護師 安永浩子)



グループワークの様子



# ICLSコースが開催されました

7月22日に院外看護師20名、8月26日に院内研修医1年目25名、9月3日に院内看護師19名を対象とした二の丸ICLSコースが開催されました。ICLS (Immediate Cardiac Life Support) とは突然の心停止に対する最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得することを目標としたコースです。午前中は蘇生に必要なスキルを磨いて頂き、午後からは実際のチーム蘇生について体を動かしながら習得して頂きました。

コースの序盤ではぎこちなさも見られましたが、時



チーム蘇生ロールプレイングの様子

間が経つにつれて動きもスムーズになり、最終的には質の高いチーム蘇生ができるようになったと思います。急変対応に慣れておられる方にとっても、普段はほとんど急変対応することがない方にとっても、習得したことが臨床現場で大いに役立つことを願っています。また年に2回、院外看護師を対象としたICLSコースを開催しておりますので、院外の方でもICLSに少しでも興味のある方は、ぜひご応募ください。

(救急科医長 櫻井聖大)



午前中の講義の様子

## 派遣ナース&復興応援ナース近況報告

看護部では、くまもと復興応援ナースと、国立病院機構に感染管理看護師を派遣しています。また、10月から熊本地震に伴う合併妊産婦の予定帝王切開開始に伴い、国立病院機構から助産師2名を派遣して頂きました。

### 【派遣ナース帰院報告】

平成29年6月1日から8月31日の3ヶ月間、国立病院機構沖縄病院へ感染管理専従看護師として勤務してきました。病院の状況を把握し、相談を受けた時や問題発生時は柔軟に考え、対応できる力が必要だと改めて感じました。貴重な機会をいただいたことに感謝いたします。



田代 里美 (感染管理認定看護師)



恩納村の海です。休日には琉球舞踊やおいしい泡盛の作り方を勉強し、沖縄の文化も楽しみました。

### 【派遣ナース紹介】

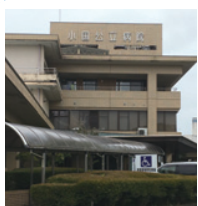
9月から派遣助産師として熊本医療センター6階西病棟に配属となりました小倉医療センターの原田です。熊本の妊産婦さんの力になれるよう、スタッフの一員として頑張りたいと思っています。よろしくお願ひ致します。



原田ありさ

熊  
本  
医  
療  
セ  
ン  
タ  
ー

### 【くまもと復興応援ナース近況報告】



小国公立病院

平成29年8月1日より応援ナースとして、小国公立病院で働かせて頂いています。小国公立病院は、小国町、南小国町に一つしかない総合病院です。そのため、救急病院として救急車の受け入れもしつつ、地域医療として、自宅に帰るためのリハビリ目的の受け入れ等も行われています。慣れるまで大変ではありますが、スタッフの方々も、とても親身になって教えて下さり、楽しく働かせて頂いています。

近くには、わいた温泉や杖立温泉、黒川温泉など、沢山の温泉があり、日勤が終わった後などに、温泉に行ったりもしています。自然に囲まれ、澄んだ空気と星空がとても綺麗で癒されています。仕事も遊びもまだまだ満喫していきたいと思ひます。



吉寄 綾子

嬉野医療センターより、派遣助産師として9月からの7ヶ月間お世話になります。今回、妊婦の保健指導から産後の育児支援までを6西スタッフの一員として、基盤作りに励みたいと思ひしております。宜しくお願ひします。



島田 雅子

## 第1回 熊本県地域両立支援推進チーム会議 が開催されました

病気を抱える労働者が活躍できる環境を整備するために、今年3月「働き方改革実行計画」に基づき、国は企業文化の抜本改革や、主治医、会社・産業医と患者に寄り添う両立支援コーディネーターのトライアングル型のサポート体制の構築などにより治療と仕事の両立支援を推進することとされています。今年度より各都道府県において「地域両立支援推進チーム」が設置され、さる9月1日 熊本地方合同庁舎にて第1回目

の会合が開催されました。行政機関・企業・産業保健関係・医療関係・職能団体など就労支援に関わりのある各関係機関が一同に集まり、各機関の取組状況の情報共有や両立支援推進チームの取り組みについて協議が行われました。



今年度は、多くの方への周知・理解の促進に向けて、関係機関と連携している事業所などを対象としたセミナー開催やリーフレットの作成など予定されております。当院でも多くの患者様が治療を受けながら仕事を続けることでの生きがい、働きがい、経済的負担軽減などお一人お一人の生活の質が保たれるように相談支援体制の整備・充実化や地域両立支援推進チームとのネットワーク構築に努めてまいりたいと思います。

(地域医療連携室室長 渡邊健次郎  
医療ソーシャルワーカー 西迫はづき)

この会議の内容はテレビでも放映されました。かかりつけの患者様で悩まれている方がいらっしゃいましたらお気軽にご案内下さい。



## 電子カルテリプレイスデモが行われました

8月21日、22日に研修センターホールにおいて、次期電子カルテ選定のための電子カルテ、部門システム各社の展示説明会が開催されました。来年の4月には平成31年から使用する電子カルテを決定します。

電子カルテは病院にとって一番高額な設備投資であり良質なシステムを選定しなければなりません。



各社プレゼンの様子



このため富士通、NEC、ソフトウェア・サービスの電子カルテが展示されました。各社のプレゼンから感じたところは電子カルテ、オーダーの機能は各社十分に洗練されていました。カルテ内の検索機能は明らかに進歩しています。チーム医療の機能を高めたり、より緊密な連携を行うために院内でしっかりと比較検討して参ります。

(副院長 清川哲志)



## 病院増改修整備工事の進捗状況

これから、本格的にStep 3（増築棟新築工事）がスタートします。9月～10月の工事は、主に「地盤改良工事」と「杭打ち工事」で、建物の基礎を丈夫にするために行う工事です。地盤改良工事完了後は、杭打ち工事、大型タワークレーン設置へと移行します。工事は現在予定どおり進行中です。引き続き、ご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

（業務班長 朝重久緒）

### ＜今後のスケジュール予定＞

- ・研修棟、売店食堂棟解体：Step 2 平成29年4月～平成29年8月（終了）
- ・増築棟新築工事：Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- ・外来棟改修工事：Step 4 平成30年12月～平成31年8月

（※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。）



## 「周術期禁煙」についてお願い

当院では本年5月31日から敷地内完全禁煙となりました。周術期患者さんに対しては、手術決定時からの禁煙を徹底しています。手術決定時に主治医から禁煙指導を行い、禁煙宣誓書にサインをいただいています。緊急症例を除いて、手術適応・手術希望の患者さんをご紹介いただく際には、患者さんと信頼関係の厚い先生方からの禁煙指導を是非お願いいたします。ニコチン依存の患者さんは、ご自身での禁煙が難しい場合も多く、禁煙外来への紹介が推奨されています。禁煙外来を開設されている施設へ是非ご紹介ください。先生方と連携を図りながら、患者さんにより良い状態で手術に臨み、合併症をできる限り減らし、早期に社会復帰していただくため、御協力をお願いいたします。

（麻酔科医長 古庄千代）

手術前には、まず



- point1 喫煙は手術の合併症を増やし、傷の治りも悪くします。
- point2 禁煙はいつから始めても合併症を減らす効果があり、早いほど有効です。
- point3 禁煙は手術後も継続することで、病気の経過を改善します。
- point4 受動喫煙も手術経過に有害です。家族が手術なら禁煙しましょう。

公益社団法人日本麻酔科学会

## 地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

地域医療連携室直通電話  
096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00

地域医療連携室長 渡邊健次郎



## 最近のトピックス

### リウマチ性多発筋痛症について



総合診療科医長  
辻 隆宏

リウマチ性多発筋痛症（PMR；polymyalgia rheumatica、以下PMR）は、50歳以上、特に60歳以上の高齢者に発症する原因不明の慢性炎症性疾患です。「リウマチ」という名前がついていますが、関節リウマチとは別の病気です。特異的な検査がなく、原因不明の痛みとして、いくつかの医療機関を転々とする事も少なくありません。不明熱の原因としても重要で、プライマリ・ケアの観点からも是非知っていただきたい病気の一つです。臨床症状、診断、治療について紹介いたします。

#### （1）臨床症状

PMRは、比較的急性発症であることが多く、発症日を特定できる場合もあります。後頸部、肩、体幹部に近い上腕や大腿の痛みが強く、「ある日急に両腕が肩より上に挙げられなくなった」、「痛くて起き上がれない、着替えがしにくい、寝返りができない」と訴えることが多いです。また、発熱や倦怠感といった全身症状を来すことも多いです。

#### （2）検査所見

血液検査では、体の炎症所見を反映して、赤沈亢進やC反応性蛋白（CRP）の上昇を認めます。超音波検査やMRI検査で肩関節周囲の炎症を認めることがあります。レントゲンでは、異常を認めることが少ないです。

#### （3）診断

Birdの診断基準（表）が用いられることが多いですが、本邦におけるPMR研究会による診断基準や、ACR/EULAR（American College of Rheumatology、米国リウマチ学会）/European League Against

Rheumatism、欧州リウマチ学会）による暫定分類基準も用いられます。発熱・こわばり・痛みを伴う疾患（感染症、関節リウマチ、多発性筋炎、全身性血管炎、腫瘍随伴症候群など）を鑑別することが重要です。

#### （4）治療

少量の副腎皮質ステロイド（プレドニゾロン10～20mg/日）が著効することが多いです。初期治療で反応が得られたら、2～4週間経過を観察し、症状とCRPや赤沈の陰性化を指標にしながら、2～4週ごとに10～20%ずつ減量していきます。多くの場合、1～3年でステロイドを中止できますが、30～40%に再燃がみられ、プレドニゾロン5mg/日程度を維持量として継続することも多いです。治療中は、ステロイドによる副作用（性消化管障害、耐糖能障害、骨粗鬆症など）に関しても十分配慮する必要があります。

#### （5）巨細胞性動脈炎との合併

PMRの20%前後で巨細胞性動脈炎（GCA；giant cell arteritis、以下GCA）を合併します。GCA合併例では、視力・視野障害から失明にいたる場合があります。PMR診断時に、頭痛や浅側頭動脈の怒張、蛇行、発赤、圧痛を認めた時は、GCAの合併が疑われます。

PMRは、少量のステロイド療法で劇的に良くなりますが、適切な診断・治療を行うためには、ある程度の診療経験を要します。類似症状でお困りの方がいらっしゃいましたら、総合診療科にご相談ください。

表. Birdの診断基準

1. 両肩の疼痛 および/または こわばり
2. 2週間以内の急性の発症
3. 赤沈値40mm/時以上
4. 1時間以上持続する朝のこわばり
5. 65歳以上
6. 抑うつ症状 および/または 体重減少
7. 両側上腕部の圧痛

上記7項目中3項目以上を認めた場合PMRと診断できる



いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ117回

カルバマゼピン中毒に対する活性炭吸着療法の有用性

臨床工学技士 竹本勇介 佐藤朋哉 田代博崇

【目的】カルバマゼピンはてんかんや三叉神経痛の治療薬として用いられていますが、今回、重症のカルバマゼピン中毒に活性炭吸着療法を行いました。しかし、施行時間や施行回数など治療法の確立がされていなかった為、カルバマゼピンの血中濃度を測定し吸着性能の評価を行いました。

【方法】血液浄化装置：TR-55X（東レ・メディカル社製）、吸着型血液浄化器：メディソーパーDHP（旭化成メディカル社製）、多用途血液処理用血液回路：JCH-20BX-M（東レ・メディカル社製）を使用しました。バスキュラーアクセスは右鼠径の大腿静脈よりGentle Cathブラッドアクセスカテーテル12Fr×25cm（COVIDEN社製）を挿入しました。また、血液ポンプ流量：100ml/min、抗凝固剤はヘパリン（初回3000U・持続1000U/H）を使用し経時的にカラム前後でカルバマゼピン濃度を測定しました。

【結果】活性炭吸着療法を24時間施行し、カルバマゼピンの血中濃度の低下が得られました。活性炭カラム前後でのカルバマゼピン血中濃度の経過は図1で示すように、22時間後でも吸着能を有しており、長時間の施行が可能でした。

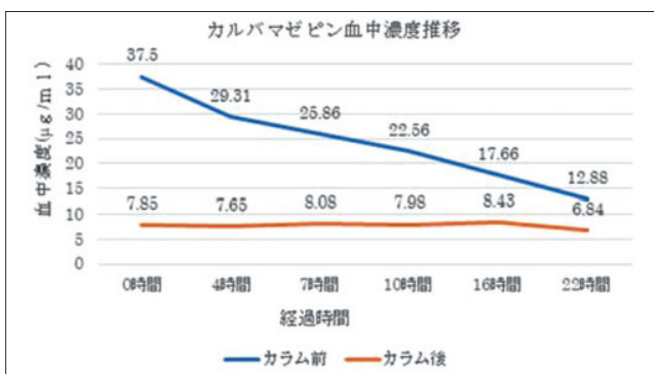


図1 カルバマゼピン血中濃度推移

【考察】活性炭の微細孔の径は100～5000ダルトンであり、分子量100ダルトン以下または10000ダルトン以上の物質は吸着されにくいとされています。そこで、今回の原因物質のカルバマゼピンの特徴は、蛋白結合率が78%・半減期が18時間・分布容積が1.2L/kg・分子量が236ダルトンです。カルバマゼピンは図2で示

すように分子量が活性炭吸着の除去物質域に含まれており、除去が可能でした。また、図3で示すように分子量の異なる物質（クレアチニン113ダルトン、ビタミンB<sub>12</sub> 1335ダルトン、イヌリン5500ダルトン）の活性炭の物質の除去性能では、分子量が小さいほど除去性能が高いとされていました。今回の原因物質も分子量が236ダルトンと比較的小さかったため、長期に渡って吸着能を保てたと考えられました。

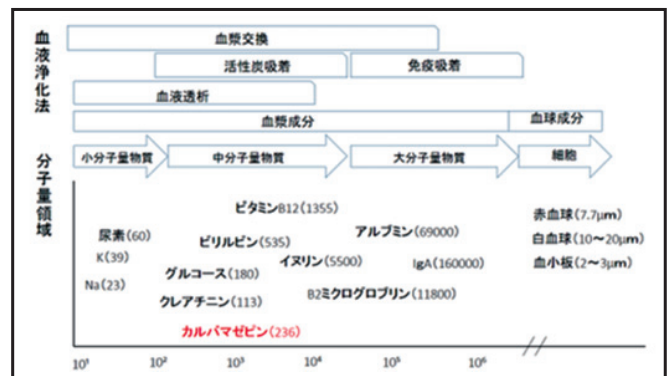


図2 各物質の分子量領域と血液浄化法の除去領域

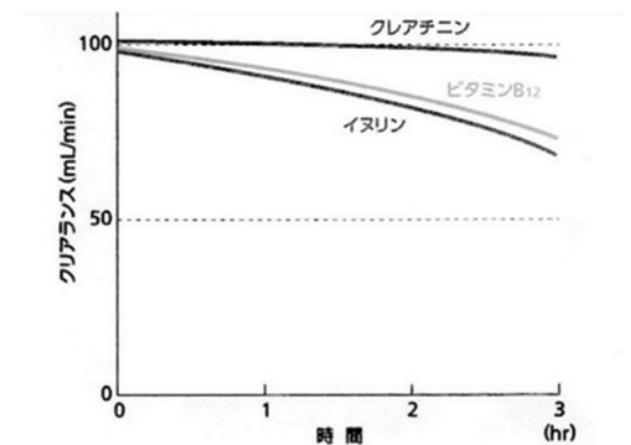


図3 活性炭の除去性能

【結語】カルバマゼピン中毒に対して活性炭吸着療法を24時間施行しました。活性炭吸着療法は2～3時間でカラムを交換するのが一般的ですが、カルバマゼピンの血中濃度を経時的に測定したことで、長時間吸着能が保たれていることが示唆されました。重症のカルバマゼピン中毒に対する治療に活性炭吸着療法は有効であると思われました。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

さかた ゆう  
坂田 優



こんにちは。研修医1年目の坂田優と申します。産業医科大学を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から早5か月たちましたが、いまだにわからないこと、慣れないことばかりで、指導医の先生方、スタッフのみなさんの助けをかりながら、毎日を送っております。

外科から研修をスタートしましたが、薬や輸液の処方、検査のオーダーなど基本的な病棟業務からわからず、いつもこれで大丈夫なのだろうかと不安に思いながら初めの1か月を過ごしました。何もわからない私に、指導医の先生をはじめ、スタッフさん、研修医の

先輩方が優しくご指導くださり、少しずつできることが増えていきました。手術では、様々な手技をさせていただき、またチームワークの大切さを学びました。次に回りました救急部では、毎日様々な疾患の患者さんの初期対応をし、多くの経験を積むことができました。静脈ルート確保や動脈採血、挿管など様々な手技をさせていただきました。重症の患者さんを目の前に、自分の無力さを痛感する毎日でしたが、この悔しさを常に胸に抱き、今後の研修をより充実したものにしていきたいです。

現在は糖尿病・内分泌内科で研修を行っています。糖尿病教育入院で入院されている患者さんの生活背景を含めたくさんの話をし、医師と患者の信頼関係を構築していくことがいかに大切で難しいことか、日々実感しております。

これからも様々な科で研修させていただき、ご迷惑をおかけすると思いますが、1つ1つできることを増やし、お役に立てられるよう精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### 臨床研修医

さとう まさこ  
佐藤 雅子



こんにちは。国立病院機構熊本医療センター初期研修医1年目の佐藤雅子と申します。

研修生活が始まって約5か月が経ち、熊本の地にも少しずつ慣れてきましたが、まだまだ分からないことがたくさんあり、毎日のように周りの先生方や研修医の先輩と同期、コメディカルのみなさんに助けられながら研修をしています。

私は、4月から麻酔科、血液内科、そして神経内科で研修させていただいています。

最初に研修した麻酔科では、術前診察や麻酔の流れ、気管挿管・AラインやVライン確保・腰椎穿刺など多くの手技を学ばせていただきました。麻酔中は常にモニターに注意を払い、患者のバイタルに変化があれば迅速に対応しなければならず毎日緊張感をもって研修

を行うことができました。

次にローテートした血液内科の研修では、まず電子カルテの使い方、処方の仕方、検査オーダーなどを覚えることに苦労しました。また、血液内科は手技が多く骨髄穿刺やPICC挿入、腰椎穿刺などたくさん経験でき、麻酔科で磨いた手技を生かすことができました。骨髄移植の症例が多く、とても貴重な経験をさせていただきました。

現在は神経内科で研修をしています。脳梗塞の症例が多いですが、その他の神経内科疾患の症例も学ばせていただいています。脳梗塞の分類について、様々な検査結果からどのように診断したのかを自分で考えさせてくれるので、とても勉強になります。また、学生のころから神経診察が苦手でも今もまだ苦手なままですが、毎日やることで少しずつ慣れてきているのが実感できています。

これからまたたくさんの方々にご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



# 研修のご案内

## 第93回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年10月4日(水) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

清川哲志

「小児難病の早期診断と治療」

熊本大学大学院生命科学研究部小児科学分野教授

中村公俊 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

## 第224回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年10月16日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 クッシング症候群を呈した腓神経内分泌腫瘍の一例」

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長

磯部博隆

「第2症例 大量腹水を合併したC型肝硬変・末期腎不全患者に腹膜透析が著効した一例」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

山本紗友梨

2. ミニレクチャー「咳嗽の見方」

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

小野 宏

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第94回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年10月18日(水) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

大塚忠弘

「脳腫瘍診療におけるサイエンス」

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野教授

武笠 晃丈 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

## 第128回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年10月25日(水) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ『急激な経過を辿った40代男性の瘵』

(40代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救急科

江良 正

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山寿彦

「肝障害を既往に持つ40代男性が嘔吐、左肩の痛み、呼吸困難で救急搬送となった。」

※臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。

通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第5回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成29年10月28日(土) 15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：豊田消化器外科医院 院長

豊田徳明 先生

演題：「肝疾患診療の新時代～肝炎・肝硬変・肝がん治療～」

1. 慢性肝炎の最新の検査・治療

国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長

杉 和洋

2. 肝がんの病態に応じた肝動脈化学塞栓療法

国立病院機構熊本医療センター放射線科医長

根岸孝典

3. 最新の肝硬変治療

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

中田成紀

4. 包括的肝疾患治療up to date

熊本大学大学院生命化学研究部消化器内科学准教授

田中基彦 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

# 2017年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研修室
1日(日)		
2日(月)		
3日(火)		
4日(水)	<b>19:00~20:30 第93回 特別講演</b> [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「小児難病の早期診断と治療」 熊本大学大学院生命科学研究部小児科学分野教授 中村 公俊 先生	★今月の注目 事前の参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。
5日(木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「救急外来での腹部超音波検査」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 中田 成紀	
6日(金)		
7日(土)		
8日(日)		
9日(月)		
10日(火)		
11日(水)		
12日(木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「脳梗塞 急性期の対応」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 西 晋輔	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
13日(金)		
14日(土)	9:30~14:30 第41回 ナースのための心電図セミナー <講演> 心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 すえふじ医院 院長 末藤 久和 先生
15日(日)		
16日(月)		19:00~20:30 第224回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
17日(火)	19:30~21:00 第52回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「退院時における嚥下調整食についての調理指導」 座長 本町ごとう歯科医院 院長 後藤 千恵 先生 谷田病院栄養科主任 福島 宏美 先生 熊本機能病院栄養部課長 高山 仁子 先生 合志第一病院栄養科主任 佐藤 由紀 先生	
18日(水)	<b>19:00~20:30 第94回 特別講演</b> [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「脳腫瘍診療におけるサイエンス」 熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野教授 武笠 晃丈 先生	13:00~17:00 季節の糖尿病教室(研2) ★今月の注目 事前の参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。
19日(木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症」 国立病院機構熊本医療センター外科医長 久保田竜生 14:00~15:00 第55回 市民公開講座 「喉頭がんについて」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村 尚樹	
20日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がんについて」
21日(土)		
22日(日)		
23日(月)		
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
25日(水)	<b>19:00~20:30 第128回 総合症例検討会(CPC)</b> [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
26日(木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「婦人科領域の急性腹症」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 西村 弘 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 <細胞診月例会・症例検討会>	
27日(金)		
28日(土)	15:00~17:30 第5回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「肝疾患診療の新時代 ~肝炎・肝硬変・肝がん治療~」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 豊田消化器外科医院 院長 豊田 徳明 先生 1. 慢性肝炎の最新の検査・治療 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋 2. 肝がんの病態に応じた肝動脈化学塞栓療法 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 根岸 孝典 3. 最新の肝硬変治療 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 中田 成紀 4. 包括的肝疾患診療 up to date 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学准教授 田中 基彦 先生	
29日(日)		
30日(月)		
31日(火)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)